

健康保険に関する資料(一) (昭和十二年一月)

疾病及醫療に関する調査資料

社會局保險部

昭和十二年一月  
川上理一先生  
寄贈  
厚生省研究所

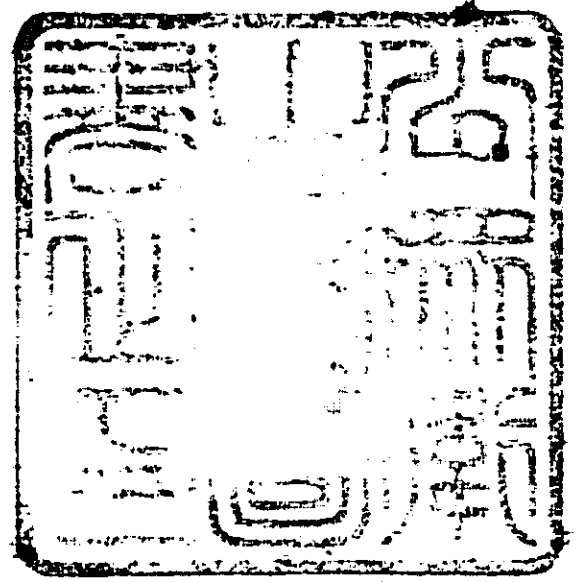
〔代贈寫〕

国立保健医療科学院蔵書



\*10012013\*

G  
12



省研究所圖  
7757

目次

第一部 疾病死亡に関する資料

一、疾病死亡の概況……………一頁

二、地方別疾病死亡……………二

(一) 府縣別疾病率……………二

(二) 都鄙別疾病率……………三

(三) 府縣別死亡率……………五

(四) 都鄙別死亡率……………三

(五) 農村に於ける疾病死亡……………七

(イ) 病類別疾病……………七

(ロ) 診療科別疾病……………〇

(ハ) 病類別死亡原因……………三

(ニ) 寄生蟲……………五

(ホ) トラホーム……………七

G  
12

7757

三、職業別疾病死亡……………三九

(一) 俸給生活者……………三九

(イ) 地方遞信官署職員の疾病……………三九

(ロ) 警察官吏の疾病死亡……………四〇

(ハ) 健康保険法の適用を受くる職員の疾病死亡……………四一

(二) 農業従事者……………四三

(三) 労働者……………四三

(四) 學生……………四七

(五) 陸海軍人……………四八

(イ) 陸軍軍人の疾病……………四八

(ロ) 海軍軍人の疾病……………四八

(六) 職業別死亡率……………四九

(七) 外國に於ける實績……………五〇

四、生活程度別疾病……………五一

五、貧困と疾病……………五四

(一) 貧困原因としての疾病……………五四

(二) 細民の疾病率……………六〇

(三) 失業者の疾病……………六六

第二部 醫療機關に関する資料

一、診療機關の數並分布……………六九

(一) 官立病院及公立病院……………七〇

(二) 私立病院……………七〇

(三) 病院に非ざる診療所……………七二

(イ) 一般診療所……………七二

(ロ) 齒科診療所……………七三

(四) 特種診療機關……………七四

二、病床數……………八二

三、醫師、齒科醫師、藥劑師、賣藥業者及産婆の數並分布……………八六

(一) 醫師……………八七

(イ) 市町村別分布……………八七

(ロ)	道府縣別分布	八六
(ハ)	無醫町村數及人口	九一
(二)	齒科醫師	九四
(イ)	市町村別分布	九四
(ロ)	道府縣別分布及無醫町村	九五
(三)	藥劑師	九六
(イ)	市町村別分布	九六
(ロ)	道府縣別分布及藥劑師の在住せざる町村	九九
(四)	賣藥營業者	一〇一
(イ)	賣藥製造營業者	一〇一
(ロ)	賣藥請賣業者數及賣藥行商者數	一〇四
(五)	産 婆	一〇七
(イ)	市町村別分布	一〇七
(ロ)	道府縣別分布及産婆の在住せざる町村	一〇八

第三部 醫療費に関する資料

一、	はしがき	一一三
二、	平均醫療費	一一三
(一)	農村居住者の醫療費	一一五
(a)	農村保健衛生實地調査成績に依る結果	一一五
(b)	愛知縣經濟更生計畫に依る結果	一二七
(c)	農家經濟調査の結果	一二〇
(二)	都會地居住者の醫療費	一二三
(イ)	俸給生活者の醫療費	一二三
(a)	家計調査(内閣統計局)の結果	一二四
(b)	俸給生活者生計調査(協調會)の結果	一二七
(c)	警察共済組合の實績	一三〇
(ロ)	勞働者の醫療費	一二三
(a)	家計調査(内閣統計局)の結果	一二三
(b)	職工生計調査(社會局)の結果	一二三
(c)	職工生計調査(協調會)の結果	一二五

(d) 健康保険の実績……………一三六

(三) 醫師の所得より見たる醫療費……………一三六

三、醫療費の内譯……………一四〇

(一) 病類別……………一四〇

(二) 診療方法別……………一四三

四、醫療料金……………一四七

(一) 一般醫療料金……………一四七

(二) 齒科醫療料金……………一四九

第四部 救療事業概況

一、はしがき……………一六七

二、救療を要する者……………一六七

三、救護法實施狀況……………一七二

(一) 救護法に依る救護に於ける救療の地位……………一七二

(二) 醫療、助産及埋葬狀況……………一七三

四、時局匡救醫療救護狀況……………一七七

五、濟生會救療事業概況……………一八〇

附 錄

一、我國の人口増加率……………一八五

一、諸外國に於ける人口増加率……………一八五

一、市町村別人口……………一八六

(イ) 調査當時の市域に依るもの……………一八六

(ロ) 昭和十年十月一日に於ける市域に依るもの……………一八六

一、諸國の大都市人口……………一八七

一、有業率……………一八七

一、有業者の職業別……………一八七

一、有業者の地位別……………一八八

一、有業者の産業別……………一八九

一、世帯人員別普通世帯數及人口……………一九〇

一、産業別普通世帯數及人口……………一九〇

一、第三種所得額別世帯數……………一九一

一、農山村世帯の所得階級別……………一九二  
一、道府縣別市町村數及人口……………一九三  
一、道府縣別世帯數及人口……………一九六

第一部 疾病死亡に関する資料

## 第一部 疾病死亡に關する資料

### 一、疾病死亡の概況

我國民の保健状態は、近來良好に向ひつゝありと稱せらるゝも、國民保健状態の標準と謂はるゝ各種の死亡率に就いて、歐米諸國のそれに比較するときは、相當の懸隔の存することを知るのである。即ち昭和九年に於ける我國の死亡率は、人口千人に對し一八・一<sup>人</sup>であり、之を諸外國に比較するときは、佛蘭西の一五・一<sup>人</sup>、伊太利の一三・三<sup>人</sup>、英吉利の一二人、和蘭の如きは僅かに八・四<sup>人</sup>にして之等に比し我國の死亡率は著しく高きを示してゐる。又死亡率中兒童保健状態の尺度とも謂ふべき乳兒死亡率を我國最近（昭和九年）の事實に據つて觀るも生産百人に對し一二・五<sup>人</sup>弱を示し、之を諸外國に比すれば著しく高率にして實に其の二倍、三倍に達する状態である。

我國民の死亡原因に就き最近の状況を觀察するに、最も多きを占むるは結核にして、人口一萬人に對し昭和九年は一九・三<sup>人</sup>にして、世界文明國中の首位を占めてゐる。次は下痢及腸炎、肺炎、腦出血にして之等四疾患は我國死因中の最も大なるものに屬する、而して結核は其の青少年期に於て多く罹患する點に於て他の三者と異り最も國民に慘害を及ぼしつゝある。結核、肺炎に依る死亡率は大都市に於て高く、下痢、腸炎及腦

出血死亡率は農村に於て高いのである。

我國民の死亡を年齢別に觀察するに（昭和五年の事實に依る）乳幼児期と青年期とに於て特に高率なるを見るのである。前者は人口千人に付男四七人、女四二・六後者は（二〇―二四歳）男九・二女一〇・一（二五―二九歳）男七・八女八・九である。

上述の死亡統計に依りて略我國民保健状態の一般は想像し得るのであるが、國民の疾病狀況に就ては、現在適切な統計資料を缺き遺憾ながら其の詳細を知ることが困難である。併し乍ら既存の資料を以つて之を概観すれば、日本醫師會の昭和十一年十月一日現在に於て全国的に調査したるものより推算すれば罹病率は人口百人に付患者二・九五從つて全人口一人當一ヶ年罹病日數は約十一日である。次に静岡縣醫師會の昭和五年十月一日現在に付き調査したる静岡縣民の罹病率は人口百人に付患者一・七三にして之より推計すれば、人口一人當年罹病日數は約六日である。又濟生會が細民に付き昭和九年一ヶ年に亘り實地調査したるものに依れば、調査人員三、三九一人罹病人員は一、六三三人にして、調査人員の四八・二に相當する。而して罹病者一、六三三人の罹病回數は二千四百十一回にして、罹病一回に對する平均罹病日數は六十五日強であり、調査人員一人當年罹病日數は四十六日位である。更に職員の疾病例として警察共濟組合員の罹病率（自大正十四年至昭和九年、十ヶ年平均）に就て觀れば組合員千人に付一ヶ年三六七人である。

以上は我國民の疾病死亡の概況であるが、更に疾病死亡に付地方的に之を觀察し、次いで職業と疾病及貧

困と疾病に就て觀察することとする。

各國の死亡率（人口千人に付死亡）

年	次	日本	英吉利	佛蘭西	伊太利	獨逸	北米	白耳義	和蘭
明治三十二年	(一九〇〇年)	二・三	一・八	二・二	二・九	二・五	二・七	一・八	一・七
同 三十三	(一九〇〇年)	二・三	一・八	二・二	二・九	二・五	二・七	一・八	一・七
同 三十四	(一九〇一年)	二・四	一・七	二・〇	三・〇	三・〇	一・七	一・七	一・七
同 三十五	(一九〇二年)	二・九	一・五	二・五	三・三	三・二	一・六	一・七	一・六
同 三十六	(一九〇三年)	二・〇	一・五	一・九	三・四	三・〇	一・六	一・七	一・五
同 三十七	(一九〇四年)	二・三	一・五	一・九	三・三	二・九	一・六	一・六	一・五
同 三十八	(一九〇五年)	二・一	一・六	一・九	三・三	二・九	一・六	一・六	一・五
同 三十九	(一九〇六年)	二・八	一・七	二・〇	三・〇	二・八	一・六	一・六	一・四
同 四十	(一九〇七年)	二・九	一・五	二・〇	三・〇	二・八	一・六	一・六	一・四
同 四十一	(一九〇八年)	二・九	一・五	二・〇	三・〇	二・八	一・六	一・六	一・四
同 四十二	(一九〇九年)	二・九	一・五	二・〇	三・〇	二・八	一・六	一・六	一・四
同 四十三	(一九一〇年)	二・一	一・四	一・八	三・二	二・七	一・五	一・五	一・三
同 四十四	(一九一一年)	二・三	一・四	一・九	三・二	二・七	一・五	一・五	一・三
同 四十五	(一九一二年)	二・三	一・四	一・九	三・二	二・七	一・五	一・五	一・三
大正二年	(一九一三年)	二・三	一・四	一・九	三・二	二・七	一・五	一・五	一・三
同 三年	(一九一四年)	二・三	一・四	一・九	三・二	二・七	一・五	一・五	一・三
同 四年	(一九一五年)	二・一	一・六	二・二	三・四	三・一	一・四	一・五	一・三
同 五年	(一九一六年)	二・一	一・八	二・三	三・七	三・二	一・四	一・五	一・三



年	次	日本	英吉利	佛蘭西	伊太利	獨逸	北米	白耳義	和蘭
大正六年	(一九一七年)	三・四八	一・四八	三・六八	一・九二	二・〇六	一・四三	一・六三	三・三二
同 七	(一九一八年)	三・六八	一・七八	二・八八	三・〇〇	二・四八	一・八三	二・〇八	三・七二
同 八	(一九一九年)	三・三八	一・四八	二・九〇	二・八八	二・五八	一・三〇	一・五〇	三・三三
同 九	(一九二〇年)	三・五〇	一・三九	二・七三	二・八七	二・五二	一・三一	一・三八	三・〇〇
同 十	(一九二一年)	三・三七	一・三五	二・七七	二・七四	二・三九	一・二七	一・三八	二・二〇
同 十一	(一九二二年)	三・三三	一・三二	二・七五	二・七四	二・五二	一・二八	一・三八	二・〇〇
同 十二	(一九二三年)	三・三八	一・二八	二・六七	二・六〇	二・三九	一・二七	一・三〇	二・〇〇
同 十三	(一九二四年)	三・二二	一・二六	二・六八	二・六八	二・三三	一・二七	一・三三	二・〇〇
同 十四	(一九二五年)	三・〇三	一・二四	二・七四	二・七二	二・三三	一・二八	一・三三	二・〇〇
大正十五年	(一九二六年)	三・九二	一・一九	二・七四	二・七二	二・三三	一・二八	一・三三	二・〇〇
昭和二年	(一九二七年)	三・九二	一・一九	二・七四	二・七二	二・三三	一・二八	一・三三	二・〇〇
同 三	(一九二八年)	三・九二	一・一九	二・七四	二・七二	二・三三	一・二八	一・三三	二・〇〇
同 四	(一九二九年)	三・〇〇	一・三六	二・七九	二・六五	二・三三	一・二九	一・三三	二・〇〇
同 五	(一九三〇年)	二・八二	一・二七	二・五八	二・四八	二・二二	一・二二	一・三三	二・〇〇
同 六	(一九三一年)	二・九〇	一・三五	二・六三	二・四八	二・二二	一・二二	一・三三	二・〇〇
同 七	(一九三二年)	二・七七	一・三三	二・五八	二・四七	二・〇八	一・〇九	一・三三	二・〇〇
同 八	(一九三三年)	二・七八	一・三五	二・五八	二・三七	二・〇八	一・〇九	一・三三	二・〇〇
同 九	(一九三四年)	二・八一	一・三〇	二・五二	二・三三	二・〇九	一・〇七	一・三七	二・〇〇

備考 一、表中\*印を附したるものは概数である。  
二、衛生局國民保健統計に依る。

各國の乳兒死亡率 (生産百人に付一歳未満者の死亡)

年	次	日本	英吉利	佛蘭西	伊太利	獨逸	北米	白耳義	和蘭
明治一九一三年	(一八六—一八七)	二・七	一・四	一・六	一・九	二・〇	一・一	一・六	二・七
同 二四—二八年	(一八八—一九〇)	二・七	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
同 二九—三三年	(一九一—一九三)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
同 三四—三八年	(一九四—一九六)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
同 三九—四三年	(一九七—一九九)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
同 四四—四八年	(二〇〇—二〇二)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
大正一〇—一四年	(二〇三—二〇五)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和二年	(一九二七)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和三年	(一九二八)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和四年	(一九二九)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和五年	(一九三〇)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和六年	(一九三一)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和七年	(一九三二)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和八年	(一九三三)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和九年	(一九三四)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和十年	(一九三五)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和十一年	(一九三六)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和十二年	(一九三七)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和十三年	(一九三八)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和十四年	(一九三九)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和十五年	(一九四〇)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和十六年	(一九四一)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和十七年	(一九四二)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和十八年	(一九四三)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和十九年	(一九四四)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和二十年	(一九四五)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和二十一年	(一九四六)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和二十二年	(一九四七)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和二十三年	(一九四八)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和二十四年	(一九四九)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五
昭和二十五年	(一九五〇)	二・五	一・五	一・七	一・八	二・〇	一・一	一・六	二・五

備考 衛生局國民保健統計に依る。

各國の原因別死亡 (人口一萬人に付)

疾病分類	日(1924年)	英(1924年)	佛(1923年)	獨(1923年)	伊(1924年)	白(1923年)	和(1924年)
腸チフス及バラチフス	1.24	0.04	0.06	0.09	1.15	0.27	0.07
痘疹	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
麻疹	0.01	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00
百日咳	1.44	0.00	0.06	0.33	0.83	0.56	0.55
猩紅熱	0.07	0.09	0.09	0.33	0.55	0.60	0.60
流行性感冒	1.47	1.03	0.33	0.74	0.77	0.77	0.77
呼吸器病	14.33	6.27	11.21	6.68	6.29	6.23	6.23
其他	5.07	1.51	2.03	1.13	2.33	1.83	1.83
梅毒	0.11	0.02	0.10	0.03	0.07	0.03	0.03
其他傳染病及寄生蟲病	0.01	0.01	0.04	0.00	0.03	0.01	0.00
癌、其ノ他ノ惡性腫瘍	7.00	15.60	9.67	3.66	8.07	10.56	10.56
良性腫瘍及惡性、良性、別不明ノ腫瘍	0.00	0.07	0.09	0.06	0.03	0.08	0.08
慢性レウマチス及痛風	0.07	0.07	0.09	0.09	0.03	0.03	0.03
糖尿	0.00	1.51	0.09	0.09	0.03	0.03	0.03
慢性及急性アルコール中毒	0.00	0.01	0.10	0.00	0.03	0.01	0.00

疾病分類	日(1924年)	英(1924年)	佛(1923年)	獨(1923年)	伊(1924年)	白(1923年)	和(1924年)
其ノ他ノ全身病及慢性中毒	2.54	2.33	0.90	1.41	1.73	0.67	1.17
赤髄癆及麻痺性癱瘓	0.09	0.00	0.51	0.09	0.35	0.85	0.33
腦出血、腦栓塞及腦血栓	16.66	7.33	2.00	9.01	3.81	9.70	6.00
其ノ他ノ神經系及感覺器ノ疾患	8.33	2.88	4.00	3.07	3.33	2.64	2.64
心臟ノ疾患	6.33	2.53	15.11	2.94	14.00	2.04	2.84
其ノ他ノ血行器ノ疾患	0.09	5.55	3.66	4.00	3.66	2.80	2.53
氣管支炎	3.66	4.00	2.66	1.59	3.66	3.80	1.27
肺炎	18.00	7.00	8.00	7.55	17.71	9.83	6.33
其ノ他ノ呼吸器ノ疾患(結核性ヲ除ク)	4.80	1.19	9.01	2.55	1.95	4.00	1.05
下痢及腸炎	18.75	1.33	2.33	1.00	2.70	2.84	0.66
蟲様突起炎	0.36	0.06	0.04	0.07	0.03	0.83	0.50
肝臓及膽道ノ疾患	1.84	1.03	2.60	1.51	1.00	1.88	0.90
其ノ他ノ消化器ノ疾患	8.00	3.00	3.17	2.97	2.91	3.75	1.87
腎臓	8.75	3.66	4.61	1.80	3.92	3.33	2.91
其ノ他ノ泌尿生殖器ノ疾患	0.09	1.95	1.01	1.66	1.17	1.33	1.33
産褥熱	0.10	0.33	0.15	0.07	0.33	0.00	0.11
其ノ他ノ妊娠分娩及産褥ノ疾患	0.64	0.04	0.30	0.00	0.00	0.00	0.00
皮膚、皮下結締組織、骨及運動器ノ疾患	0.81	0.06	0.00	0.06	0.69	0.33	0.00
先天性弱質、畸形、早産	3.34	5.01	3.70	5.65	6.91	3.20	4.81
老衰	3.00	4.33	10.00	1.14	8.66	3.07	5.92
自殺	2.33	1.33	2.00	2.87	0.87	1.83	0.85
他殺	0.00	0.00	0.10	0.10	0.10	0.10	0.00

疾病分類	日本 (一九四四年)	英吉利 (一九四四年)	佛蘭西 (一九三三年)	獨逸 (一九三三年)	伊太利 (一九四四年)	白耳義 (一九三三年)	和蘭 (一九四四年)
外因死又ハ不慮ノ死(自殺及他殺ヲ除ク)	四・六七	四・三三	四・九七	三・四八	三・三三	三・〇三	二・七六
不明ノ診斷及不詳ノ原因	五・四八	〇・五〇	二・五三	二・三三	一・三三	七・九〇	三・〇九
計	一八・〇五	一九・〇六	二五・七二	二一・八五	二二・八〇	三三・四〇	八四・二二

備考 一、死亡原因は一九二九年改正國際死因及疾病簡單分類に依る。  
二、衛生局國民保健統計に依る。

各國の結核死亡率 (人口一萬人に付)

年次	日本	英吉利	佛蘭西	伊太利	獨逸	合衆國	北米	和蘭	白耳義	丁抹
大正元年 (一九一二年)	三・九	三・八	二・二	一・四	一・四	一・五	一・四	一・四	一・九	三・六
二年 (一九一三年)	三・〇	三・五	二・二	一・四	一・四	一・四	一・四	一・四	?	三・六
三年 (一九一四年)	三・〇	三・五	二・二	一・四	一・四	一・四	一・四	一・四	?	三・六
四年 (一九一五年)	三・三	三・六	二・三	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五	?	三・五
五年 (一九一六年)	三・三	三・六	二・三	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五	?	三・五
六年 (一九一七年)	三・三	三・六	二・三	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五	?	三・五
七年 (一九一八年)	三・三	三・六	二・三	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五	?	三・五
八年 (一九一九年)	三・三	三・六	二・三	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五	?	三・五
九年 (一九二〇年)	三・三	三・六	二・三	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五	?	三・五
十年 (一九二一年)	三・三	三・六	二・三	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五	?	三・五

年次	日本	英吉利	佛蘭西	伊太利	獨逸	合衆國	北米	和蘭	白耳義	丁抹
同 十一年 (一九二二年)	二・七	二・二	?	一・四	一・四	一・五	一・四	一・四	?	九・五
同 十二年 (一九二三年)	二・〇	一・六	?	一・四	一・四	一・五	一・四	一・四	?	九・五
同 十三年 (一九二四年)	一・九	一・六	?	一・四	一・四	一・五	一・四	一・四	?	九・五
同 十四年 (一九二五年)	一・九	一・六	?	一・四	一・四	一・五	一・四	一・四	?	九・五
大正十五年 (一九二六年)	一・八	一・六	?	一・四	一・四	一・五	一・四	一・四	?	九・五
昭和元年 (一九二七年)	一・九	一・六	?	一・四	一・四	一・五	一・四	一・四	?	九・五
同 二年 (一九二八年)	一・九	一・六	?	一・四	一・四	一・五	一・四	一・四	?	九・五
同 三年 (一九二九年)	一・九	一・六	?	一・四	一・四	一・五	一・四	一・四	?	九・五
同 四年 (一九三〇年)	一・九	一・六	?	一・四	一・四	一・五	一・四	一・四	?	九・五
同 五年 (一九三一年)	一・八	一・六	?	一・四	一・四	一・五	一・四	一・四	?	九・五
同 六年 (一九三二年)	一・八	一・六	?	一・四	一・四	一・五	一・四	一・四	?	九・五
同 七年 (一九三三年)	一・八	一・六	?	一・四	一・四	一・五	一・四	一・四	?	九・五
同 八年 (一九三四年)	一・九	一・六	?	一・四	一・四	一・五	一・四	一・四	?	九・五

備考 衛生局國民保健統計に依る。  
年齢別死亡率 (各年齢階級人口千人に付死亡)

年齢階級	大正十四年			昭和五年		
	男	女	平均	男	女	平均
零歳—四歳	一六・〇	一四・三	一四・一	一四・一	一三・七	一三・五
一歳	五・〇	四・二	四・七	三・九	三・三	三・〇
二歳	三・三	二・九	三・一	二・六	二・〇	二・三
三歳	一・五	一・三	一・四	一・三	一・〇	一・一

年齢階級	大正十四年		昭和五年	
	男	女	男	女
五歳	100.0	112.3	87.0	93.3
十歳	49.3	48.8	41.1	44.6
十五歳	33.0	34.3	27.7	33.8
二十歳	7.5	9.6	7.3	8.7
二十五歳	9.2	10.7	9.2	10.1
三十歳	7.8	9.6	7.8	8.9
三十五歳	7.4	9.4	7.0	8.6
四十歳	8.4	10.2	7.9	9.3
四十五歳	11.2	12.5	10.2	11.7
五十歳	14.6	17.3	13.3	15.7
五十五歳	20.2	24.3	18.0	21.7
六十歳	25.5	30.9	23.8	28.7
七十歳	32.3	39.5	30.0	36.3
八十歳	39.5	48.1	37.7	44.8
九十歳	48.2	59.9	46.6	55.1
平均	10.7	12.8	10.6	12.7

備考 衛生局國民保健統計に依る。

人口千人に付患者數 (昭和十一年十月一日現在)

病類別	昭和十一年十月一日現在	
	人口千人に付	千分率
内 科	117.2	39.8
内 肺 結 核 科	21.4	7.3
消 化 器 病 科	40.4	13.7
其 他 病 科	55.4	18.8
精 神 病 科	3.9	1.3
法 定 傳 染 病 科	2.1	0.7
外 科	37.9	12.9
泌 尿 生 殖 器 病 科	14.4	4.9
皮 膚 科	11.1	3.7
産 婦 人 科	10.6	3.6
小 兒 科	36.0	12.2
内 結 核 性 疾 患 科	3.1	1.0
消 化 器 疾 患 科	16.4	5.6
其 他 疾 患 科	16.5	5.6
眼 科	3.7	1.2
耳 鼻 咽 喉 科	24.1	8.2
計	294.8	100.0

備考 日本醫師會に於て調査せる結果より推定せるものなり。

二、地方別疾病死亡

(一) 府縣別疾病率

府縣別疾病の狀況に就ては適確なる統計を缺くを以つて、左に日本醫師會に於て昭和十一年十月一日現在の患者數を調査したるものを掲げることとする。

人口百人に對する疾病人員

道府縣別	男	女	平均	道府縣別	男	女	平均
北海道	2,337	1,999	2,199	岐阜	2,022	1,822	1,922
青森	1,688	1,333	1,511	静岡	2,388	1,833	2,111
岩手	1,799	1,400	1,600	愛知	4,277	3,277	3,777
宮城	2,155	1,799	1,977	三重	2,400	2,111	2,255
秋田	1,800	1,422	1,611	滋賀	1,899	1,566	1,733
山形	2,099	1,855	1,977	京都	3,211	2,499	2,855
福島	2,337	1,611	1,999	大阪	4,422	3,511	3,966
茨城	1,888	1,455	1,671	兵庫	4,400	3,277	3,838
栃木	1,900	1,488	1,694	奈良	1,944	1,766	1,855
群馬	1,633	1,611	1,622	和歌山	2,766	2,177	2,471
埼玉	2,188	1,811	2,000	鳥取	2,555	2,000	2,277
千葉	1,955	1,577	1,766	島根	2,333	2,055	2,194
東京	4,800	3,944	4,372	岡山	3,333	2,533	2,933
神奈川	3,500	2,399	2,949	広島	3,911	2,955	3,433
新潟	6,700	5,199	5,949	山口	2,966	2,055	2,511
富山	2,466	1,944	2,205	徳島	2,733	2,599	2,666
石川	3,399	2,911	3,155	香川	2,466	1,999	2,233
福井	2,688	2,599	2,644	愛媛	2,899	2,133	2,516
山梨	1,555	1,455	1,505	高松	3,422	2,811	3,116
長野	2,055	1,499	1,777	福岡	6,244	3,888	5,066
山梨	2,055	1,499	1,777				
平均				平均			

道府縣別	男	女	平均
佐賀	3,355	2,433	2,894
長崎	3,966	2,522	3,244
熊本	2,455	1,944	2,199
大分	3,055	2,499	2,777
宮崎	2,399	1,977	2,188
鹿兒島	2,911	2,299	2,555
沖縄	1,077	822	949
計	3,311	2,588	2,949

備考 本表は昭和十一年十月一日現在の患者を日本醫師會に於て調査せるものより推算したものである。

(二) 都鄙別疾病率

我國に於て都鄙別疾病の實績に付ては、適確なる統計を缺くけれども、左に掲ぐる表は人口別の市町村に依る疾病率を調査したものである。

都鄙別疾病率

種別	人口別	患者数	人口百人ニ對スル患者數
郡	五、〇〇〇人以下	一〇、五三八	一・三七
	一〇、〇〇〇人以下	七、五一二	一・六一
部	一五、〇〇〇人以下	一、九七七	一・七一
	二〇、〇〇〇人以下	六二七	一・八八
小計	三〇、〇〇〇人以下	一、四六三	二・二〇
	計	二二、一一七	一・五〇

種別	人口別	人口数	患者数	人口百人ニ對スル患者数
市	五〇、〇〇〇人以下	四三、九五九	一、〇八八	二・四七
	一〇〇、〇〇〇人以下	五五、六六四	一、二八三	二・三〇
部	一五〇、〇〇〇人以下	二四二、八四三	六、四六〇	二・六六
	計	三四二、四六六	八、八三一	二・五八
合計	計	一、七九一、八八九	三〇、九四八	一・七三

備考 静岡縣病勢調査(昭和五年)に依り算出せるものであつて瞬間的疾患率である。

之に依ると市部と郡部は著しく疾病率に差等があるけれども、此の統計は現に醫師の診療を受けて居る者のみであつて、實際田舎には地理的事情、經濟的事情に依つて、醫師の診療を受けることが出来ないで手療治、例へば賣藥其の他に依つて治療を爲しつゝあるものも相當ある事を考慮に入れなければならぬ。

次に社會局に於て全國四、七〇八世帯、其の調査人員二八、六三〇人に付昭和八年中に調査人員一人當り疾病件数を都邑別に調査したる結果に依れば、左表の如くである。

市町村別疾病件数 (昭和八年中社會局調)

都邑別	調査世帯数	調査人員	無病人員	疾病件数	無病人員ノ對スル割合	調査人員一人當り疾病件数
大都市(人口十万人以上)	三六〇	二、一二四	一、〇〇四	一、一九七	・四七	・五六
中都市(人口五万人以上)	五〇八	三、一〇七	一、五一七	一、六〇八	・四九	・五二

小都市(人口二万人以上)	都會地隣接町村	普通農村	山村	計(平均)
七四三	七五八	一、〇〇一	六〇七	四、七〇八
四、四六九	四、六二九	六、一五九	三、六七〇	二八、六三〇
二、一三三	二、三一〇	二、八一三	一、八〇四	一三、四七三
二、四一四	二、四二八	三、四九〇	一、九一四	一五、七二四
・四八	・五〇	・四六	・四二	・四七
・五四	・五〇	・五七	・六〇	・五五

(三) 府縣別死亡率

我國民の死亡率を地方的に觀察すれば左表の如く、北陸及び之に隣接する地方並に東北地方に高く、九州の南部及大都市の所在する府縣に於て低いのである。

死亡及乳兒死亡地方別 (昭和九年)

道府縣別	死亡	死亡率(人口千人ニ對シ)	乳兒死亡	乳兒死亡率(生後百人に對シ)	道府縣別	死亡	死亡率(人口千人ニ對シ)	乳兒死亡	乳兒死亡率(生後百人に對シ)
北海道	五、三三	一六・六〇	三、三三	二・七	茨城縣	二九、二六	一八・五八	七、〇三	一四・五
北海縣	一九、三六	二〇・七	六、二〇	一六・一	栃木縣	三三、四九	一八・二〇	四、四二	一三・三
青森縣	二〇、〇八	二〇・元	五、六三	一四・三	群馬縣	三三、四九	一八・二	四、四九	一一・三
岩手縣	二〇、七六	一七・〇二	五、三三	一三・〇	埼玉縣	二九、八三	一九・七	六、三四	一三・八
宮城縣	二〇、一三	一九・六二	五、八七	一四・八	千葉縣	二九、五七	一九・六	六、五三	一三・八
秋田縣	二〇、二三	一九・五	五、五二	一四・二	東京府	八四、一〇	一三・六九	一四、五五	九・四
山形縣	二〇、三三	一八・〇六	六、五七	一三・三	東奈川縣	二六、四八	一五・九	五、〇五	一〇・三
福島縣	二六、三三	一八・〇六	六、五七	一三・三	神奈川縣	二六、四八	一五・九	五、〇五	一〇・三

道府縣別	死亡	死亡率 (人口千人に付)	乳兒死亡	乳兒死亡率 (生産百人に付)	道府縣別	死亡	死亡率 (人口千人に付)	乳兒死亡	乳兒死亡率 (生産百人に付)
新潟縣	四、六六九	二〇・八四	八、八〇二	三三・三	島根縣	一、五三三	三二・五	三、〇一九	三・六
富山縣	一、九六〇	二四・四	四、九三三	一八・六	岡山縣	二、四五六	一八・六三	四、六八	三・五
石川縣	二、〇〇六	二六・二八	四、四〇〇	一九・三	廣島縣	三、三三三	一八・二二	五、六七	二・九
福井縣	一、六二五	二五・六九	三、五八六	八・六	山口縣	二、八三五	一八・六九	三、四八	一・〇七
長野縣	一、〇八一	一六・六一	二、二八	一〇・四	徳島縣	一、五二四	一五・三	三、〇六	二・〇
岐阜縣	二、九一八	二六・三三	四、九六六	九・七	香川縣	一、四六三	一九・三	三、〇六	二・三
静岡縣	二、五九八	二二・六	五、六四	二二・九	愛媛縣	二、二八二	一八・〇六	四、〇八	二・三
愛知縣	三、三三三	二七・五〇	七、四三	二一・七	高知縣	三、〇三三	二七・五九	二、五七	一・〇
三重縣	三、五〇六	二九・三	三、四四	一四・四	福岡縣	四、七三三	二七・五	九、四七	二・三
滋賀縣	二、二九三	二〇・〇	五、四九	一五・一	佐賀縣	三、三六六	一九・三	三、一七	一・四
京都府	一、五三三	二二・四	二、九四	一四・五	長崎縣	三、三三〇	二七・〇	四、四七	一・三
大阪府	二、六二六	二七・三	五、三三七	三・八	熊本縣	二、三三三	一八・三	四、三三	一・〇
兵庫縣	一、八七	一七・四	八、九四	三・二	大分縣	一、九三〇	二〇・五	四、〇〇	一・三
奈良縣	三、六九〇	三〇・九	二、六八	一五・二	宮崎縣	二、七九	二六・六	二、六二	一・〇
和歌山縣	一、五〇九	一七・四	二、三三	一四・二	鹿兒島縣	二、七九	二七・三	四、九	一・〇
鳥取縣	九、七二	一八・四	一、八九	三・三	沖繩縣	九、二二	一八・二	三、〇三	二・五
合計					合計				

備考 衛生局國民保健統計に依る。

右に依ると人口千人に付死亡率の最も高きは、石川縣二六・二八にして福井縣の二五・六九富山縣二四・四

二滋賀縣の二二・四五岐阜縣の二二・三六島根縣の二二・一五奈良縣の二〇・九四等之に次ぐ。其他新潟、青森、大分、徳島、三重、埼玉、秋田、山形、佐賀、千葉、愛知、香川等の諸縣は全國平均(一八・一一)以上である。又死亡率の最も低きは東京府の一三・六九であつて、沖繩縣の一五・六四神奈川縣の一五・九八宮崎縣の一六・一六長野縣の一六・三二大阪府の一六・六一北海道の一六・九〇宮城縣の一七・〇一等之に次いで低く、何れも全國の平均以下にある。

次に乳兒死亡率に就て見れば、右と同様に生産百人に付き石川縣一九・三最も高く、次は福井、富山、青森、三重、奈良縣の順序であり、又最も低いのは沖繩縣の五・五にして、東京府、長野縣、鹿兒島縣等之に次いで低く、全國平均以下にある。

更に結核に依る死亡を地方別に見れば、次の通りで人口一萬人に付全國的平均は一九・二九である。

結核死亡地方別 (昭和九年)

道府縣別	實數		人口一萬人に付	
	呼吸器ノ結核 (肺病及肺結核)	其ノ他ノ結核	呼吸器ノ結核 (肺病及肺結核)	其ノ他ノ結核
北海道	五、二二	二、一七	一六・六九	七・一八
青森縣	一、三〇八	四、四三	一四・七	四・七
岩手縣	九、三	四、四	九・四〇	四・四
宮城縣	一、一八九	五、七	九・七	四・六
合計				

道府縣別	實數		人口一萬人付	
	呼吸器ノ結核 (巴菌ヲ含ム)	其ノ他ノ結核	呼吸器ノ結核 (巴菌及肺管支ノ淋)	其ノ他ノ結核
滋賀縣	1,127	43	1,170	6,033
京都府	3,146	1,126	4,272	6,402
大阪府	7,452	2,336	9,788	5,932
奈良縣	4,910	1,710	6,620	6,018
兵庫縣	885	354	1,239	5,711
和歌山縣	1,330	251	1,581	4,717
鳥取縣	555	275	830	5,555
島根縣	1,109	335	1,444	5,244
岡山縣	1,526	335	1,861	4,744
廣島縣	1,733	605	2,338	5,518
山口縣	2,279	928	3,207	5,555
山形縣	1,056	354	1,410	4,811
徳島縣	1,733	433	2,166	5,244
香川縣	928	577	1,505	4,811
愛媛縣	1,800	577	2,377	4,811
高知縣	928	433	1,361	5,244
福岡縣	2,016	1,170	3,186	5,055
佐賀縣	800	354	1,154	5,055
長崎縣	1,270	577	1,847	5,055
熊本縣	1,800	577	2,377	5,055
大分縣	1,410	577	1,987	5,055
宮崎縣	800	354	1,154	5,055
鹿兒島縣	2,166	577	2,743	5,055
沖縄縣	928	354	1,282	5,055

道府縣別	實數		人口一萬人付	
	呼吸器ノ結核 (巴菌及肺管支ノ淋)	其ノ他ノ結核	呼吸器ノ結核 (巴菌及肺管支ノ淋)	其ノ他ノ結核
秋田縣	928	354	1,282	3,355
山形縣	1,056	433	1,489	3,711
福島縣	1,526	577	2,103	4,166
茨城縣	1,361	577	1,938	3,711
栃木縣	1,170	577	1,747	3,711
群馬縣	1,270	577	1,847	3,711
埼玉縣	1,800	577	2,377	3,711
千葉縣	1,410	577	1,987	3,711
東京府	10,644	3,186	13,830	3,711
神奈川縣	2,921	928	3,849	5,333
新潟縣	2,271	1,011	3,282	5,333
富山縣	1,921	577	2,498	5,333
石川縣	1,485	87	1,572	5,333
福井縣	1,270	333	1,603	5,333
山梨縣	1,733	478	2,211	5,333
長野縣	1,800	577	2,377	5,333
岐阜縣	2,016	577	2,593	5,333
愛知縣	2,330	743	3,073	5,333
三重縣	1,170	354	1,524	5,333



道府縣別	實數			人口一萬人に對する患者及死者		
	呼吸器ノ結核 (肺結核及氣管支炎)	其ノ他ノ結核	全結核	呼吸器ノ結核 (肺結核及氣管支炎)	其ノ他ノ結核	全結核
總計	六、五二	三、五〇	一〇、〇二	一四・三	五・〇七	一九・三九

備考 衛生局國民保健統計に依る。

右表に依れば、結核死亡率の高き地方は石川縣三〇・二三で京都府の二五・六六大阪府の二五・〇三福井縣の二四・八五之に次いで高く、又最も低きは茨城縣の一〇・七四であつて、山梨縣、山形縣、秋田縣、千葉縣之に亞ぐ。

又傳染性疾患に付て見れば左表の通りである。

法定傳染病 (人口一萬人に對する患者及死者)

道府縣別	コレラ		赤痢 (瀉痢)		傷寒		腸チフス		パラチフス		痘瘡		發疹チフス		猩紅熱		チフリア		流行性腦脊髄膜炎		ペスト		
	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	
北海道	〇・五	〇・〇八	〇・一〇	〇・〇四	六・一八	〇・九	〇・九	〇・五	〇・〇四	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一
青森	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
岩手	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
宮城	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
秋田	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
山形	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
福島	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
茨城	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇

道府縣別	コレラ	赤痢 (瀉痢)	傷寒	腸チフス	パラチフス	痘瘡	發疹チフス	猩紅熱	チフリア	流行性腦脊髄膜炎	ペスト
栃木	二・八	一・九	一・七	三・六	〇・九	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
群馬	六・七	二・四	二・〇	二・七	〇・五	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
埼玉	五・八	二・四	二・〇	二・九	〇・五	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
千葉	四・〇	一・九	一・七	二・七	〇・五	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
東京	三・〇	一・三	一・〇	二・八	〇・四	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
神奈川	二・三	一・〇	〇・八	二・八	〇・四	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
新潟	〇・五	〇・二	〇・一	〇・五	〇・二	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
富山	〇・八	〇・三	〇・二	〇・七	〇・三	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
石川	〇・五	〇・二	〇・一	〇・四	〇・二	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
福井	〇・二	〇・一	〇・一	〇・三	〇・一	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
山梨	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
長野	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
岐阜	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
静岡	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
愛知	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
三重	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
滋賀	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
京都	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
大阪	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
兵庫	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
奈良	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
和歌山	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
鳥取	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇

道府縣別	コレラ		赤痢		疥癩		腸チフス		パラチフス		痘瘡		發疹チフス		猩紅熱		チフリア		流行性脳脊髄膜炎		ペスト	
	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者
島根	二・六	一・九	一・九	一・三	三・三	〇・七	〇・八	〇・七	〇・八	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七
岡山	四・六	一・六	一・五	一・〇	一・〇	〇・八	〇・八	〇・八	〇・八	〇・八	〇・八	〇・八	〇・八	〇・八	〇・八	〇・八	〇・八	〇・八	〇・八	〇・八	〇・八	〇・八
広島	七・四	二・五	二・四	一・二	二・二	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九
山口	九・六	三・七	三・七	二・二	三・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八
徳島	一〇・九	三・七	三・七	二・二	三・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八
香川	八・六	三・五	三・五	二・二	三・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八	二・八
愛媛	二・七	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
高知	五・九	二・〇	二・〇	一・四	二・四	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九
福岡	五・三	一・九	一・九	一・四	二・四	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九
佐賀	〇・六	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四	〇・四
長崎	三・三	一・五	一・五	一・六	三・五	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六
熊本	六・四	二・八	二・八	二・四	三・五	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六
大分	二・〇	一・〇	一・〇	一・四	二・四	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六
宮崎	四・四	一・五	一・五	一・四	二・四	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六
鹿児島	四・三	一・五	一・五	一・四	二・四	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六
沖縄	六・〇	二・七	二・七	一・七	三・五	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六
計	六・〇	二・七	二・七	一・七	三・五	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六

(四) 都鄙別死亡率

市部と郡部との死亡率を比較観察すれば次の通りである。

市部、郡部別死亡率累年比較

年次	實數		死亡率 (人口千人ニ付)	
	市部	郡部	市部	郡部
大正十四年	二四三、〇五二	九六七、六五四	一八・九〇	二〇・六四
大正十三年	二三五、七七九	九二四、九五五	一七・六八	一九・六〇
昭和二年	二五一、一二七	九六三、一九六	一八・〇二	二〇・三三
同三年	二五五、七五四	九八〇、九五七	一七・六〇	二〇・六一
同四年	二六七、七三五	九九三、四九三	一七・六六	二〇・七九
同五年	二五四、一七一	九一六、六九六	一六・四六	一八・七一
同六年	二七九、九一二	九六〇、九七九	一七・四六	一九・四八
同七年	二七一、三九一	九〇三、九五三	一三・七八	一九・四〇
同八年	三二五、〇三九	八六八、九四八	一五・七九	一八・六三
同九年	三四五、二三五	八八九、四四九	一六・〇〇	一九・〇八
平均	二七二、九二〇	九三七、〇二八	一六・九四	一九・七三

備考 衛生局國民保健統計に依る。

右の表に依ると最近十ヶ年平均は市部は人口千人に付一六・九四であるのに、郡部即ち町村は一九・七三で著しく死亡率が高い。

次に乳兒死亡率に付市部と郡部とを大正十四年から昭和九年の十ヶ年間に就て比較すれば左の通りであ

市部、郡部の乳児死亡率比較（生産百人に付）

年次	市部		郡部		年次	市部		郡部	
	市	部	郡	部		市	部	郡	部
大正十四年	15.1	14.2	14.1	13.6	昭和六年	12.7	12.0	12.7	12.2
大正十五年					昭和七年		10.6		
昭和二年	14.6	13.5	14.1	13.8	昭和八年	10.8	10.8	10.8	11.5
昭和三年	13.5	14.1	13.8	14.2	昭和九年	11.0	11.0	11.0	11.8
同四年	14.1	17.7	14.2	12.5	平均		9.0		13.4
同五年	17.7		12.5						

備考 衛生局国民保健統計に依る。

右の表に依ると十ヶ年の平均では、市部も郡部も大差はない。然しながら市部は郡部よりも高率を占めて居たのが昭和三年以降は郡部の方が高率となつてゐる。

死亡率を市町村別に分ち村部即ち農村を中心として市部及町部を觀察すれば、左表に示す如く人口千人に付死亡者数は全般的平均の市部一六・四六町部は一七・八八村部の一九・〇九で、村部即ち農村方面が兩者に比較し高率を示してゐるのは注目し得る。

市町村別死亡率（昭和五年國勢調査）

道府縣別	死亡人口（實數）			計	人口千人に付死亡者數			計
	市部	町部	村部		市部	町部	村部	
北海道	13,333	11,031	33,185	48,800	19,439	17,780	16,091	17,366
青森縣	3,235	3,454	3,408	10,106	21,077	33,103	33,643	33,333
岩手縣	1,127	4,455	1,855	2,037	18,433	21,077	21,077	21,077
宮城縣	3,400	5,491	3,302	3,104	18,937	19,356	20,361	18,433
秋田縣	2,748	6,211	3,397	2,104	19,027	19,356	20,361	20,361
山形縣	2,491	6,054	19,021	27,555	18,141	19,356	19,356	18,141
福島縣	2,681	4,566	19,021	27,555	18,141	19,356	19,356	18,141
茨城縣	2,491	6,054	19,021	27,555	18,141	19,356	19,356	18,141
栃木縣	1,888	5,888	3,397	2,104	19,027	19,356	20,361	18,433
群馬縣	3,397	4,455	3,397	2,104	19,027	19,356	20,361	18,433
埼玉縣	4,455	5,888	3,397	2,104	19,027	19,356	20,361	18,433
千葉縣	1,000	11,031	7,359	27,733	19,941	21,077	21,077	21,077
東京府	27,733	40,960	7,359	27,733	21,077	21,077	21,077	21,077
神奈川縣	3,771	5,250	7,359	27,733	19,941	21,077	21,077	21,077
新潟縣	3,771	8,491	25,719	37,929	19,941	21,077	21,077	21,077
富山縣	2,583	4,071	10,439	17,253	21,077	21,077	21,077	21,077
石川縣	3,500	3,268	11,031	17,738	21,077	21,077	21,077	21,077
福井縣	1,476	2,380	10,439	17,253	21,077	21,077	21,077	21,077
山梨縣	1,297	933	8,608	10,838	21,077	21,077	21,077	21,077
長野縣	2,886	8,608	10,439	17,253	21,077	21,077	21,077	21,077
長野縣	2,886	8,608	10,439	17,253	21,077	21,077	21,077	21,077
長野縣	2,886	8,608	10,439	17,253	21,077	21,077	21,077	21,077
長野縣	2,886	8,608	10,439	17,253	21,077	21,077	21,077	21,077
長野縣	2,886	8,608	10,439	17,253	21,077	21,077	21,077	21,077
長野縣	2,886	8,608	10,439	17,253	21,077	21,077	21,077	21,077
長野縣	2,886	8,608	10,439	17,253	21,077	21,077	21,077	21,077
長野縣	2,886	8,608	10,439	17,253	21,077	21,077	21,077	21,077
長野縣	2,886	8,608	10,439	17,253	21,077	21,077	21,077	21,077

道府縣別	死亡人員(實數)			人口千人=付死亡者數		
	市部	町部	村部	市部	町部	村部
岐阜縣	二,二九六	六,七二二	一五,二七四	一七.八七	一九.六九	二〇.七四
靜岡縣	五,八四〇	七,七九〇	一八,四三六	一六.九〇	一七.八三	一八.二五
愛知縣	一,九一六	三,七三〇	一〇,七三三	一六.六七	一八.三三	一九.三四
三重縣	二,七四九	四,四八二	一四,八三三	一七.九	一八.七	一九.七五
滋賀縣	二,九六八	四,四八二	一四,八三三	一七.九	一八.七	一九.七五
京都府	三,三三三	四,四八二	一四,八三三	一七.九	一八.七	一九.七五
大阪府	四,〇四六	五,〇〇六	一六,〇〇六	一八.〇	一九.〇	一九.八
兵庫縣	一,八四五	三,〇〇一	一〇,二七九	一五.五〇	一七.〇三	一七.七九
奈良縣	八四四	一,三三九	四,九三九	一六.五九	一七.〇三	一七.〇三
和歌山縣	一,九三五	三,〇〇一	一〇,二七九	一六.七三	一七.〇三	一七.〇三
鳥取縣	一,四三三	二,四三三	八,四三三	一〇.八〇	一七.三三	一七.三三
島根縣	九七九	一,四三三	五,四三三	一〇.八〇	一七.三三	一七.三三
岡山縣	三,三三三	四,四三三	一四,八三三	一六.三三	一七.六	一八.三三
廣島縣	八,二〇四	一〇,九三三	三三,二〇四	一七.〇	一八.〇	一九.〇
山口縣	三,三三三	四,四三三	一四,八三三	一五.三三	一七.六	一八.三三
徳島縣	一,七三三	二,四三三	八,四三三	一五.七	一七.〇	一七.〇
香川縣	一,八〇〇	二,四三三	八,四三三	一七.九	一八.四	一九.五
愛媛縣	三,三三三	四,四三三	一四,八三三	一七.九	一八.四	一九.五
高松縣	二,〇〇〇	三,〇〇〇	一〇,〇〇〇	二.〇〇	三.〇〇	四.〇〇
福岡縣	一五,八四三	二〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	一七.七	一八.三	一九.三

佐賀縣	九八	二,三三三	一〇,六八八	二〇.一〇	二二.〇	二二.四三
長崎縣	五,七四二	四,〇〇六	一七,〇〇〇	一七.〇〇	一八.六	一九.〇
熊本縣	二,八〇〇	五,〇四一	一九,一五	一九.五	二〇.九	二一.六
大分縣	二,四三三	四,三三三	一四,三三三	一九.五	二〇.九	二一.六
宮崎縣	一,四三三	二,三三三	八,四三三	一七.〇	一九.〇	二〇.四
鹿兒島縣	二,三三三	三,三三三	一〇,三三三	一七.〇	一九.〇	二〇.四
沖繩縣	二,三三三	三,三三三	一〇,三三三	一七.〇	一九.〇	二〇.四
計	二,三三三	三,三三三	一〇,三三三	一七.〇	一九.〇	二〇.四

(五) 農村に於ける疾病死亡

(イ) 病類別疾病

病類別疾病

病名	實數	千檢人查=人付員	病名	實數	千檢人查=人付員
肺結核	六四六	四.六七	寄生蟲病	一〇〇、九九四	七二九.四〇
爾來ノ結核性疾患	一五〇	一.〇八	急性傳染病	六〇二	四.三五
花柳病	六一五	四.四四	氣管支炎	二六〇	一.八八
癩	五八	四.一九	肺管支炎	二,五一	一八.一三
トホ病	一九,九四八	一四四.〇七	喘息	四三一	三.〇三
精神病	二七〇	一.九五			